

ふるさと応援団 関西交流会

12月3日(土)、大阪市東成区の土佐料理店で四万十市ふるさと応援団の関西交流会を開催しました。

12月1日現在の団員数は800人を超え、その半数は関西在住者です。

今回の交流会は、関西在住の団員同士の親睦を深めていただくとともに、本市への率直なご意見などをいただきながら、本市との交流をさらに深めていただくことと、会費制により初めて企画しました。

中村高校同窓会、幡多農高同窓会、友好交流都市の枚方市民、ウルトラマラソン参加者など団員63名(うち本市出身20名)と、市からは市長ほか事務局(企画広報課)4名が出席しました。

はじめに田中市長が市の近況報告を兼ねてあいさつ。高知県大阪事務所溝淵篤所長、枚方市地域振興部宮本勝裕部長(市長代理)から祝辞をいただいたあと、出席者最高齢の坂本至玄さん(敷地出身)の音頭で乾杯。

その後様々な方にマイクが渡され、四万十市への思いや魅力について、語っていただきました。

池田義彦さん(元くろしお鉄道社長)からは、「四万十市のことはいつも気にかかる。ずっと応援をしたい」と力強いお言葉。ウルトラマラソン参加者からも、「全国にマラソン大会はたくさんあるが、やっぱり四万十川が一番の目標。第二のふるさとです」と語られると、会場には大きな拍手がわきあがりまりました。

相井道夫さん(廟嶺京都満州開拓団)は、終戦後、江川崎満州開拓団と一緒に大陸から引き揚げて来られた話をされました。

席を自由に移動するなど和やかな雰囲気の中で、様々な年齢層、地域の方たちが「ふるさと」をキーワードに、土佐の血鉢料理や特産品を前に交流を深めました。



ウルトラマラソン4連覇中の山根文雄氏



ずらり並んだふるさとの血鉢料理

四万十市ふるさと応援団員からの便り

関西交流会に参加して



向谷 有加里
大阪府高槻市
昭和55年生まれ

「四万十市の出身でなくても、本市が大好きな方を募集しています!」まさに私のことではと思い、四万十市ふるさと応援団募集開始とほぼ同時に応募しました。

今回関西での交流会があるとのことお知らせを頂き、純粹に四万十市大好きの一心得参加させて頂きました。

少々場違いではと不安がありました。僭越ながらご挨拶させて頂いた際に、高校の修学旅行で初めて行って以来のファンであることなど、四万十市や四万十川への想いをお話させて頂きました。そのお陰か皆様に温かく迎え入れて頂き、楽しい時間を過ごすことが出来ました。

あまり呑めないお酒もこの日は美味しくいただき、血鉢料理をたくさん

食べ、色んな方と四万十市のお話しをして、あつと言う間に時間は過ぎ、帰るのが名残惜しくなるほど、居心地の良い交流会でした。参加者全員へのお土産のほか、抽選会で見事当選し更にお土産を頂き、幸せな気分でした。

以前、四万十市を訪れた際に、町で遭遇した小学生が帽子を脱いで、「おはようございます」と私に挨拶してくれました。私の生活圏内では、残念ながら見られなくなつた光景です。四万十市のあらゆる意味での豊かさを感じる出来事でした。いつまでも豊かな四万十市であるよう、これからも応援し続けます。そしていつか移住し、本当のふるさとになればいいなと思っています。

すてきな時間をありがとうございました。